



マレーシアのハリ・ラヤ・ アイディルフィトリ

マレーシアは典型的な多民族・多文化国であり、三大民族であるマレー系、中華系、インド系の他、さまざまな先住民族や混血グループもあります。マレーシアの各民族は、それぞれ独自の文化、独自の言語、宗教、生活習慣、民族衣装、伝統等を守りながら日々暮らしており、その多様性は、単一民族からなる日本人からすると考えにくいものです。例えば、日本人にとってお正月は、年に一回だけということが当たり前のことなのですが、マレーシアは、西暦の1月1日（ニューイヤーホリデー）に加え、旧正月（チャイニーズ・ニューイヤー）、イスラム歴新年（アワル・ムハラム）、ヒンドゥー歴新年（ディパバリ）と年に4回も新年を迎えるのです。

今回は、マレーシア人口の約69%を占め、最大の民族であるマレー人の祝日の「ハリ・ラヤ・アイディルフィトリ」を紹介させていただきます。マレー人は、様々なイスラム教の祭りを祝うのですが、3大の祝日と言えば、ラマダンの終了を祝うハリ・ラヤ・アイディルフィトリ、犠牲祭とも呼ばれるハリ・ラヤ・ハジ、そして新年祭のアワル・ムハラムと言えます。イスラム教徒であるマレー人にとって、ラマダンとは宗教的に大きな意味を有するため、その終了を祝うハリ・ラヤ・アイディルフィトリは、最も大切な祭りと言えます。

ラマダンは「断食をする月」という意味を有するイスラム宗教儀式の一つです。世界中のイスラム教徒は、イスラム暦の第9番目の

月であるラマダンを、断食、内省、祈りの聖なる月とし、約30日に亘るラマダン期間中、日没から日の出まで断食して罪を償い、飢えた人や平等への共感の気持ちを表します。また、その期間中には、心を清らかに保ち罪深い行為を慎みます。伝統的には、ラマダン期間中は小さな灯油ランプで家の外を照らして、精霊や天使を呼び寄せ、夜の間に家に祝福をもたらすとされていました。現代社会では、電飾は単に装飾目的で点灯されます。

ラマダンの期間が終了すると、待ちに待ったお祝いの日がやってきます。そうです。「ハリ・ラヤ・アイディルフィトリ」です。ラマダン明けの数日間、マレー人男性はソンコック（円錐形の帽子）やバジュ・ムラユ、女性はバジュ・クルンやケバヤなどの伝統的な衣装を身にまとい、モスクに行ってお祈りをしたり、亡くなった家族に敬意を払うため



出所：<https://www.fnp.sg/blog/8-unique-facts-about-hari-raya-you-never-knew>



にお墓参りをしたり、親戚やご近所のお家へ挨拶に出かけたりします。

多くのマレー人は、家族や愛する人たちと一緒にこの日を祝うために、故郷、つまり、マレー語で「balik kampung」と呼ばれる場所に戻ります。お家ではオープンハウスを催し、親戚や友人、近所の人たちを招待し、伝統的な家庭料理やご馳走を楽しみ、会話を楽しまします。子供たちは過去1年間に犯した過ちについて親に告白し、赦しを求めるのです。その後、お金の入った小さな緑色の包みが子供たちに渡されます。

この日に欠かせない伝統料理のひとつが、ダイヤモンド型のヤシの葉の容器にお餅を詰めた「クトゥパット」です。クトゥパットは、サテ（串刺しの焼き肉）やビーフレンダン（ココナッツミルクとマレー系のスパイスで牛肉を煮込んだスパイシーな料理）と一緒に出されることが一般的です。また、レマン（竹筒で炊いたもち米）や、クッキー、ケーキ、パイナップルタルトなどのクエラヤ（一口サイズのスナック）も一般的な伝統料理として提供されます。

この祭りには2日間の祝日しか割り当てられていませんが、しばしば1ヶ月間続きます。マレーシア国民にとって主要な祝日の一つとして、マレー人だけでなく、多くのマレ

ーシア国民はこの機会に高速道路を利用し、故郷に戻ります。そのため、毎年、主要な高速道路では大規模な渋滞が発生します。しかし、昨年は新型コロナウイルスによる影響で州間移動が禁止されたため、このような光景は見られませんでした。

今年は、5月に行われますが、親戚や近所のお家や墓地の訪問は一般的に禁止されています。しかし、技術の進歩により、別の場所にいる家族でもテレビ電話で一緒にお祝いすることができるようになりました。家族や友人への贈り物は宅配便で、小さな子供への贈り物は銀行振込やGrabPayやTouch' n Goなどの電子マネーアプリで行います。マレーシアの人々はパンデミックの影響による困難を共に乗り越えていき、前向きな姿勢で素朴な喜びを感じるでしょう。

著者紹介



Ms. Charmaine Ow
(シャーメイン・オウ)

GIP ASEANマレーシアのシニア・パテント・エンジニア。1990年マレーシア、クアラルンプール生まれ。アメリカのインディアナ大学で生物工学を専攻し、2013年卒業。2017年にマレーシアの弁理士試験合格し、特許・意匠・商標弁理士の資格を有する。2013年ピンタス・コンサルティング・グループに参加。2017年GIP ASEANのメンバーとなる。

編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、新樹グローバル・アイビー特許業務法人所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所での知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠。